

令和7年度
静岡大学東部サテライト公開講座

多彩な視点から 学ぶ伊豆半島の 自然



5月20日 火

静岡大学理学部生物科学科
伊藤 舜

伊豆半島の不思議な
カタツムリたち

6月24日 火

静岡大学情報学部情報社会学科
望月 美希

地域社会学からみる
伊豆半島と津波防災

7月15日 火

静岡大学教育学部発達教育学専攻
島田 桂吾

「令和の日本型学校教育」
におけるコミュニティの
役割-「ラーニングコンパス」
の視点

9月9日 火

静岡大学理学部地球科学科
三井 雄太

宇宙から見た
伊豆半島周辺の
動きとそのメカニズム

10月7日 火

静岡大学地域創造教育センター
辻本 侑生

伊豆半島における
火を介した人間と
自然のかかわり

時間:18時~19時30分
会場:静岡大学東部サテライト
(伊豆市青羽根65-1)
定員:対面20名
オンライン100名
受講料:無料
申し込み方法につきましては
裏面をお読みください。

主催:静岡大学未来社会デザイン機構東部サテライト

電話:0558-79-3500 メール:izu-info@adb.shizuoka.ac.jp

5/20 tue

伊藤 舜

静岡大学
理学部生物科学科 助教
専門:進化生態学、島嶼生物学



プロフィール

日本学術振興会特別研究員、伊豆大島ジオパーク学芸員などを経て、2024年より現職。専門は進化生態学、島嶼生物学。伊豆半島・伊豆諸島をフィールドとし、陸産貝類(カタツムリ)を中心に研究を進めている。大好きな伊豆からワクワクするような研究の発信を目指している。

伊豆半島の不思議なカタツムリたち
カタツムリは移動能力が低く、地域ごとに隔離されやすいため、「ご当地」カタツムリが各地で知られている。伊豆半島はかつて海洋島であり、その後本州とつながった地史を持つため、本州由来と伊豆諸島由来のカタツムリが混在する。本講座では、こうしたカタツムリの進化の歴史を紐解きながら、伊豆半島の独自性を見ていく。

6/24 tue

望月 美希

静岡大学
情報学部情報社会学科 講師
専門:地域社会学、農村社会学



プロフィール

1990年静岡県出身。慶応義塾大学文学部卒業、東京大学新領域創成科学研究科修士課程・博士課程修了。博士(環境学)。2021年より現職。東日本大震災の被災地における「生活の復興」をテーマに社会学の視点からフィールドワークを行っています。主要業績として『震災復興と生きがいの社会学』(2020年)

地域社会学からみる伊豆半島と津波防災
静岡県では南海トラフ巨大地震による津波被害が想定されています。伊豆半島は、高齢化率が高い一方で、観光業や漁業といった生業と津波対策の両立も求められています。この講義では、東日本大震災後の防災・減災に関する知見、伊豆半島における防潮堤等のハード対策、避難計画・訓練等のソフト対策の現状を紹介し、今後について皆さんと考えたいと思います。

7/15 tue

島田 桂吾

静岡大学
教育学部発達教育学専攻 准教授
専門:教育行政学



プロフィール

1983年埼玉県出身。2012年に静岡大学大学教育センター学術研究員を経て2013年より現職。教育委員会関連の会議に参加することが多く、賀茂地域における指導主事の共同設置等に関与してきました。現在では学校と地域の連携・協働の在り方について理論と実践の往還を積み重ねています。

「令和の日本型学校教育」におけるコミュニティの役割-「ラーニングコンパス」の視点
現在進められている教育政策の方向性として、一斉指導による教授型授業から、子どもや地域の特性に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」として改革を進めようとしています。そのアイディアとして提唱されているのが「ラーニングコンパス」と呼ばれる考え方で、子どもたちの「ウェルビーイング」と地域の「持続可能な発展」を両立させる見方が示されています。これらを基盤としながらこれからの伊豆半島における教育環境の在り方についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

9/9 tue

三井 雄太

静岡大学
理学部地球科学科 准教授
専門:地球物理学



プロフィール

1983年生まれ。2013年より静岡大学理学部教員。主に日本地震学会・日本測地学会で活動。専門は地球物理学で、趣味は物理と統計。直接観察できない地下で起こっている様々な現象の実体を、少しでも理解したいと思い、日々模索中。

宇宙から見た伊豆半島周辺の動きとそのメカニズム
古来より、人は大地の「形」を知るために地図を作ってきました。現在では人工衛星により、大地の「形」だけでなく「動き」まで高精度に捉えられます。伊豆半島周辺では、プレート運動や地震に加え、スロースリップやマグマの移動など、多様な地殻変動が起こります。近年の地球物理学の成果をもとに、これらの実態を紹介します。

10/7 tue

辻本 侑生

静岡大学
地域創造教育センター 講師
専門:民俗学



プロフィール

1992年神奈川県生まれ。民間シンクタンク、弘前大学助教を経て、2024年より現職。災害、食と農、ケア、セクシュアリティなどのテーマについて、現代民俗学の観点から調査研究をしています。

伊豆半島における火を介した人間と自然のかかわり
私は日本の焼畑農業について15年近く研究してきました。「焼畑」というと熱帯地域のイメージが強いかもしれませんが、1960年代ごろまでは日本全国各地で行われており、現在も北陸地方や静岡市井川などで実施されています。今回は伊豆半島を舞台として、焼畑や山焼きなど、火を介した人間と自然のかかわりについて考えます。

電話・FAX・インターネットのいずれかによりお申し込みください(先着順、対面の定員は20名)。

電話: 0558-79-3500
(平日 10:00 ~ 16:00)

FAX: 0558-79-3201

※FAXの方は、氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、年齢、電話番号、メールアドレス、参加を希望する回を明記ください。

※インターネットでの申し込みは下記QRコードもしくは

<https://forms.gle/xiaCWFv4arjsa5Kh7>よりお申込みください。

※オンライン受講を希望される方には、開催日前にメールにて視聴情報を案内いたします。



申込期間

4月1日(火) ~ 5月9日(金)